

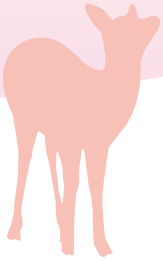


# まほろばだより

2018  
June  
vol.25

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第25号



## Contents

- ① 第7回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました
- ② Information
- ③ セクシャルハラスメントについて考えよう! 第1回「職場でのセクシャルハラスメントの実態」
- ④ 医学部医学科6年生檜山愛子さんがソロプチミスト女子学生奨学金受給者に決定しました



### Report 1

## 第7回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

奈良県立医科大学では、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。3月に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、第7回女性研究者学術研究奨励賞は眼科学講座の西智講師が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。授賞式および受賞者による記念講演は下記のとおりです。

【受賞者】眼科学講座 講師 西 智氏

【研究テーマ】小児の弱視眼における網膜、脈絡膜構造の検討

授賞式・  
受賞者による  
記念講演

### 「第7回女性研究者学術研究奨励賞授賞式」

日時：平成30年7月10日(火) 場所：臨床第一講義室

※奈良医学会総会に先立って中島佐一学術研究奨励賞授賞式と共催いたします。

### Report 2

## 良き医療人育成プログラム「ロールモデル※を探す」の授業を行いました

4月13・20・27日(金)に、医学科2年生107名を対象として、良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」の授業を行いました。

基調講演には、大学で医学教育改革を牽引する医学部長、長年にわたり地域医療に従事後医療機関で新たなキャリアをスタートさせた女性外科医師、専門医や学位取得後にクリニックを開設した男性医師の3名をお招きしました。

異なる立場でご活躍されている各先生方には、ご自身の人生の「目的」を学生に語り、これまでの成果と今後の夢や目標についてご講演いただきました。

※ロールモデルとは人生の「目的」を持った生き方の手本となる人物



第1回(4月13日)

本学医学部長 車谷典男先生  
「本学の教育改革を進める」



第2回(4月20日)

本学消化器・総合外科学教室  
横谷倫世先生  
「患者さんと向き合い20年  
～診療所・地域の病院を経て大学へ～」



第3回(4月27日)

くずもとファミリークリニック院長  
葛本幸康先生  
「患者さんに喜んでもらうために  
～開業医の立場から～」



授業は基調講演、講演内容に沿って出された課題を議論するグループワーク、課題ごとのグループ発表、質疑応答、授業責任者である須崎康恵マネージャー等教員と学生の対話の順に進めました。

学生に回答用キーパッドを貸し出し、学生によるグループ発表の評価、学生へのアンケート結果を授業中に共有しました。

授業前のアンケートでは、ロールモデルがいると答えた学生は34.6%で、その約半数は、具体的なロールモデルとして親族や先生、友人など身近な人を挙げていました(図1)。第2回講演前のアンケートで将来外科医※になりたいと答えた学生は、男女共に40%を超え(図2)、第3回講演前のアンケートで将来病院等の開設者や法人の代表者になりたいと答えた学生は、男子48.6%、女子42.4%という結果でした(図3)。3回の授業終了後のアンケートでは、授業を通してロールモデルに出会えたと答えた学生は34.6%、この授業が自分自身の人生の目的について考える機会になったと答えた学生は52.3%でした(図4)。

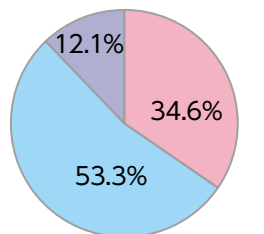
多くの学生は、先生方のお話に真摯に耳を傾け、難しいと思われる課題にも熱心に取り組んでいました。今後も当センターでは、学生がもつ社会貢献の意識を高めるために、医学教育に取り組んでいきたいと思います。



キーパッドによる回答が表示されたスクリーン

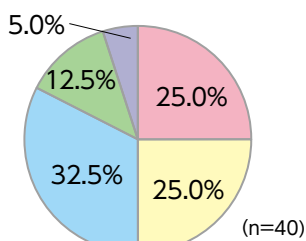
### ● 授業前のアンケート結果 (図1)

①あなたには、ロールモデルとなる人がいますか？



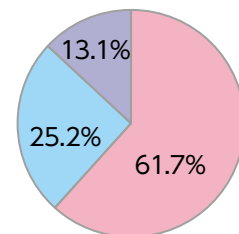
■ はい ■ いいえ ■ 無回答

②①で「はい」と答えた人に聞きます。具体的にはどのような人ですか？



■ 親族 ■ 著名人 ■ 身近な人(先生、友人、仲間、地域の人など)  
■ アニメ、漫画、ドラマ、映画、本などの実在しない登場人物 ■ その他

③今後、新たなロールモデルに出会いたいと思いますか？

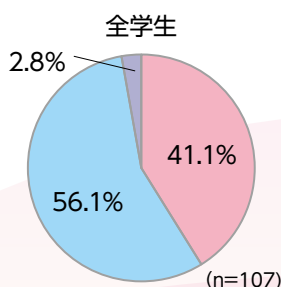


■ はい ■ いいえ ■ 無回答

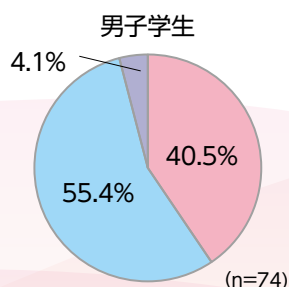
### ● 第2回講演前のアンケート結果 (図2)

あなたは将来、外科医※ になりたいと思いますか？

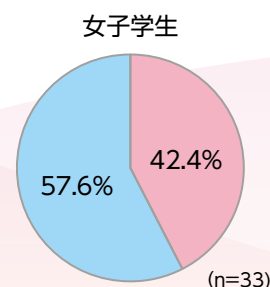
※外科医…整形外科医、消化器外科医、乳腺外科医、小児外科医、脳神経外科医、心血管外科医、呼吸器外科医、形成外科医



■ はい ■ いいえ ■ 無回答



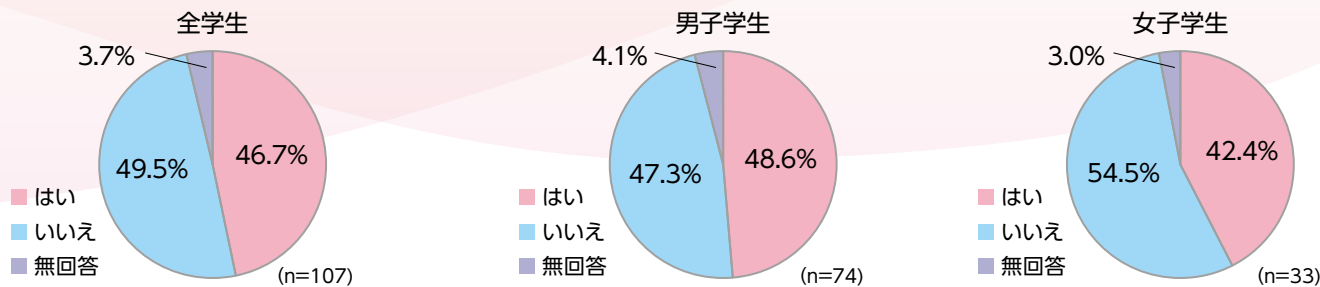
■ はい ■ いいえ ■ 無回答



■ はい ■ いいえ

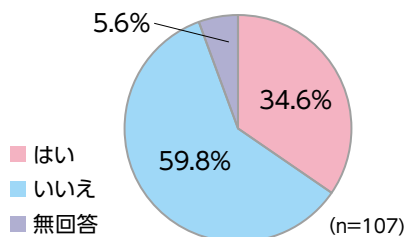
### ● 第3回講演前のアンケート結果 (図3)

病院や診療所の開設者又は法人の代表者に将来なりたいと思いますか？

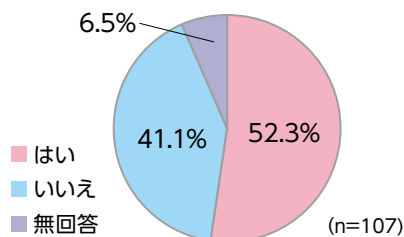


### ● 授業終了後のアンケート結果 (図4)

①3回の授業を通して、ロールモデルとなる人に出会えたと思いますか？



②3回の授業は、自分自身の人生の「目的」について考える機会になったと思いますか？



### Report 3

## 医学部医学科6年生檜山愛子さんが ソロプチミスト女子学生奨学金受給者に決定しました

国際ソロプチミストは、職業に就いている女性の世界的な組織で、女性と女児の生活向上のため、奉仕活動を実施されており、国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョンは学業・人材ともに優秀な女子大学院生・女子大学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。この度本学医学部医学科6年生の檜山愛子さんが受給者に決定しました。おめでとうございます。

**【檜山さんコメント】**この度は、「2017年度ソロプチミスト女子大学生奨学金給付」の受給者に選出していただき、身に余る光栄に存じます。私は、医学科4年生の時に、女性研究者支援センターで、研究支援員として研究補助の仕事に携わっておりました。現在6年生となり、臨床実習に励む傍ら、免疫学講座の伊藤利洋教授の指導のもと「特発性肺線維症に対する幹細胞療法の試み」というテーマで研究を行っています。今回の受賞は、多くの方々のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



### Information

#### センターの平成31年度科研費申請の 推進事業希望者を募集します

女性研究者支援センターでは昨年度本学から科研費申請を行わなかった女性診療助教および臨床系女性教員と看護学科女性教員を対象に今年度も科研費申請推進事業を行う予定です。7月頃に対象者それぞれに案内予定ですので、ぜひご利用ください。

#### 平成30年度科研費申請推進事業結果

女性の臨床系教員3名、看護学科教員4名、診療助教1名の計8名が昨年度センターで実施した民間業者による面談や添削支援を受けられました。支援を受けられた8名全員が科研費を申請し、内2名が採択を内定されています。

#### 平成30年度下半期研究支援員 配置希望者を募集します

当センターでは、妊娠・出産・子育てや介護といったライフイベントが原因で、一定期間研究の継続が困難あるいは研究時間が十分に取れない女性研究者に研究支援員を配置しています。現在は診療助教3名、臨床系教員2名、基礎系教員1名、看護学科教員1名、合計7名の女性研究者がこの制度を利用しています。

平成30年度下半期(平成30年10月～平成31年3月)の希望者募集については7月に案内予定です。制度の利用を検討されている方は女性研究者支援センターへお問い合わせください。

## 第1回「職場でのセクシャルハラスメントの実態」

「# Me Too」を合言葉に米国ハリウッドから広がった性暴力やセクシャルハラスメント（セクハラ）を告発する動きは、大学にも広がり世界的なセクハラ告発運動となっています。本学においてもハラスメント防止規程に規定するセクシャルハラスメントについて定義を定め防止に努めておりますので（本学 HP 参照）、該当する行為を行っているか、職員の皆さまに今一度ご確認いただきたいと思います。女性研究者支援センターでは、今年1年間セクシャルハラスメントに関する情報提供や講演会を行い、セクハラのない大学をめざして活動していきたいと思っております。

独立行政法人労働政策研究・研修機構が、全国の民間企業及び25歳から44歳の女性雇用労働者と就業経験のある女性無業者を対象に2015年に実施した「妊娠等を理由とする不利益取扱い及びセクシャルハラスメントに関する実態調査」では、**セクハラを経験した女性割合は28.7%**で、**その行為者は69.0%が男性**でした。態様別に見ると以下のものが多く、全態様において**職場の直属上司が行為者である割合が29.9%**と最も高い結果となっています。

- 1位「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされた」(53.9%)
- 2位「不必要に身体に触られた」(40.1%)
- 3位「性的な話や、質問をされた」(38.2%)
- 4位「結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問され、話題にされた」(36.8%)
- 5位「酒席等でお酌やデュエットを強要された、席を指定された」(35.2%)

セクハラを受けた労働者がとった対応としては、「がまんした、特に何もしなかった」が、63.4%と最も高い結果となっています。

セクハラの実態は女性に限りませんが、女性労働者の労働相談の過半数がセクハラに関するものと報告されています。職員の6割以上を女性が占める本学でも、セクハラに悩む職員は相当数いると想像されます。また、**男性優位の組織、専門の上下関係がはっきりしている組織においてセクハラが発生しやすい**と言われており、病院や医学部を抱える本学は、一般的にはセクハラが発生しやすい環境にあります。

しかしながら、セクハラは部下の育成や業務上不可避免的に発生しうるパワハラとは異なり、職員の意識を高めることでゼロにすることができると考えます。性的な会話や行動なしでも学習や仕事に何ら支障は生じません。**性的な会話や行動は、仕事の場(ランチや飲み会、移動の車内や出張先を含む)では「しない」と決めること**、ついしてしまった場合には、**速やかに謝り繰り返さないことが大原則**です。また、セクハラを受けた本人が初期の段階で相手に「NO」の意思表示をすることも大切です。周りの仲間が気づくことで抑止力になることも多々あります。そして、解決ができない時には信頼できる人に相談して下さい。女性研究者支援センターでもマネージャーと心理相談員が面談の上、対応をしていますので、お一人で抱え込まずにご相談下さい。



### [編集後記]

今号掲載しております医学科2年生対象の「ロールモデルを探す」の授業は、平成28年度から実施し、今回で3度目となりました。この授業が将来の医療を担う学生にとって、多様なキャリア構築を知り、自分自身の人生の目的について考える有意義で実りある機会となるよう、当センターでは、今回使用した回答用キーパッドのような新たなツールを利用するなど授業の進め方も創意工夫しながら引き続き取り組んでいきます。今年度もどうぞよろしく願い致します。

### [編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター 「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL : 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代)内線 : 2525  
E-mail : jshien@naramed-u.ac.jp

